

茨城県原子力安全対策委員会
東海第二発電所安全性検討ワーキングチーム
における調査検討について

平成26年7月22日
防災・危機管理局原子力安全対策課

1 原子力安全対策委員会(6/12)でいただいた主なご意見(要約)

(1) 施設の安全性について

- 施設でどのような事象が想定され、安全上どのような裕度が見込まれているのかといったことを県民に如何にわかりやすく示していくかが重要。
その際、個別の対策ではなく、総合的な視点でリスク低減につながっているのかを示すことが必要。
- 地震、津波の設定に際し、不確実さの見積もりが十分になされ、安全性を深めるために活かされているのか議論したい。
- 軽微なトラブルなども含めしっかり改善し、是正措置につなげていく自主的安全性向上の観点からの体制についても検討すべき。
- 設計基準を満たす、満たさないという話はもとより、国の審査にはないが、設計基準を超えたところの県民の懸念事項にしっかりと応えていくべき。

(2) ソフト面からの視点

- ハードウェアが増えるとプラスの面もあるが、必ずマイナス面もどこかにある。そういう意味でハードウェアの観点に加え、マネジメント的な視点もしっかり考えていくべき。
特に重大事故発生時の対応に係る部分についてしっかりと議論すべき。
- 設備の劣化について議論していくのだけれど、それ以外にマネジメント、人の意識等も劣化していく。
それをいかに防ぐかが重要であり、劣化のチェック状況や対策について確認していくべき。
- 国の審査のダブルチェックではなく、国の審査の情報を把握しつつ、ソフト面や防災とのインターフェースといった視点から、高経年化や脆弱性などについて、議論すべき。

2 東海第二発電所安全性検討ワーキングチームにおける調査検討について

(1) 調査検討事項

福島第一原子力発電所事故以降の新たな知見や教訓を踏まえた東海第二発電所における安全確保対策について

(2) 調査検討の視点(基本的考え方)

- 東海第二発電所の安全対策(今後実施予定のものを含む)が、国や事業者におけるどのような考え方のもとに実施され、その結果、東海第二発電所全体として安全性がどのように向上したのか。
- 安全対策については、設備・機器等のハード面での対応状況はもとより、その運用面などのソフト面も含めた両面から検討。

東海第二発電所安全性検討ワーキングチーム 調査検討の視点(1)

ア 新たな対策の考え方

◆最新知見の反映

- ・新規制基準への対応
- ・東海サイトに係る3.11地震の検証
- ・国内外の知見 等

◆自主保安からの取組

◆安全設備のマネジメント能力

- ・誤操作防止対策(ヒューマンエラー対策)
- ・人的資源の確保 等

イ 高経年化, 長期停止による影響

◆施設の現状評価

◆停止期間の影響

◆設備の更新状況及び計画 等

東海第二発電所安全性検討ワーキングチーム 調査検討の視点(2)

- ウ 東海第二発電所の特性を踏まえた対応
 - ◆PRA情報の活用(地震, 津波, 重大事象)
 - ◆安全裕度
 - ◆想定事故と対策の有効性 等

- エ 緊急時の対応能力
 - ◆設備・資機材, 組織体制及び権限
 - ◆社内情報伝達, 国・自治体等への通報連絡
 - ◆非常時対応訓練 等

- オ マネジメント能力の維持向上
 - ◆QA取組(最新知見の反映)
 - ◆人材育成(教育訓練)
 - ◆安全文化の風化防止(評価・改善) 等

東海第二発電所安全性検討ワーキングチーム 調査検討の進め方

- ◆「調査検討の視点」に基づき、東海第二発電所の安全対策について、順次、日本原子力発電(株)から説明聴取
- ◆適合性審査の実施状況については、随時報告
- ◆必要に応じ、現場調査の実施



- ◆WTとして、事業者や国に対し、さらに確認すべき事項(論点)を抽出、とりまとめ



- ◆事業者や国からの説明聴取